



横浜における学校を拠点とした 学区全体での防災まちづくり



神奈川県 横浜市立太尾小学校学校運営協議会会長
太尾小学校地域防災拠点運営委員会本部長 秋本 健一

1 はじめに

創立45年を迎えた太尾小学校は、開校以来、地域、保護者の皆様が学校運営に参画する気風があり、先進的に学校運営協議会を開設。学校、地域、保護者の連携を発展させました。さらに、防災まちづくりを進める理念「ふるさと太尾構想」を共有し、その連携を地域防災にも向けて、学区全体での防災まちづくりを持続発展させています。

また、地域に根ざす本校は、現行の学習指導要領がめざす「社会に開かれた教育課程」に向けて、地域、保護者の皆様の支援を受けて具体的に歩んでいます。

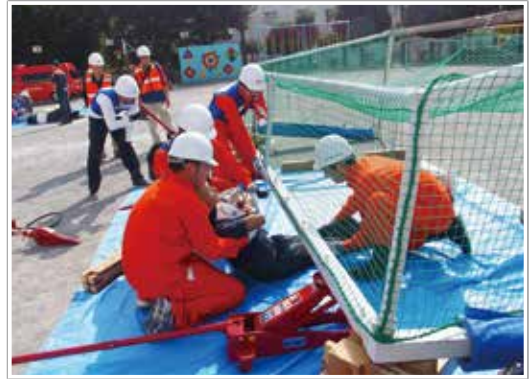
2 新しい学校・地域・保護者連携 による学区一斉防災訓練の実現

太尾小学校防災拠点訓練は、発災時に家の中で身を守る家庭内避難訓練から始まります。次に、普段から顔見知りの隣近所、そして町会・自治会・マンションでの安否確認を行い、初期消火・救出救護等を各自治会等で工夫して行います。

その後、太尾小学校校庭に集合した約2,000名の参加者による「太尾防災劇場」では、6か所のブースで、多様な訓練を行い、全校児童と保護者が授業として参加。その際には地域防災拠点運営委員会、「お父さんたちの会」、PTA役員はじめ、「保健厚生委員会」、「成人教育委員会」、太尾小学校教職員が協働作業を行います。

この訓練を通して防災・減災への意識が高まり、自分の命は自分で守る、隣近所で助け合う、その自助、共助を学ぶ学区

全体の防災訓練とまちづくりが構築できていきました。



「お父さんたちの会」による救出活動訓練

3 保護者層の防災まちづくり への主体的参画

太尾小学校PTAは、地域防災拠点訓練において保健厚生委員会が「救護班支援」、お父さんたちの会が「救出班支援」として、救護や防災資機材取扱いの実演を行います。また、成人教育委員会と保健厚生委員会が、夏季に行われる「太尾小ふるさとまつり」での炊出し訓練をして参加するなど、防災に役立つ知識や技能を身につけ、それを地域の方や子どもたちに伝え



「太尾防災劇場」で、初期消火は4年生の消火器訓練から

ています。また、こうして育った保護者OBが地域の防災まちづくりのリーダーとして活躍していく流れが、この地域の持続可能性につながっています。

4 消防団の地域防災訓練での活躍 ～保護者への救護活動指導や放水訓練～

消防団の皆さんは、学区一斉の地域防災訓練に参加して指導と支援をしています。全児童参加しての防災訓練では、4年生児童の消火器訓練、6年生全員によるバケツリレー訓練をお父さんたちの会と消防団が支援。そこに消防団がポンプによる放水の壮観を披露して、拍手喝采の中、訓練のフィナーレを飾ります。

また、女性消防団の皆さんが「救護班支援」を行うPTA保健厚生委員会を事前から指導。心肺蘇生や応急手当の活動を児童や訓練参加者に披露し、体験させられるレベルになるよう支援しています。奮闘する保護者、地域、そして消防団の皆さんの後ろ姿を全児童が見て育ちます。



6年生児童全員によるバケツリレーを支援する消防団とお父さんのたちの会

5 学校、保護者、地域、そして消防団が連携して「自助力」と「共助力」を高める

災害で被災するのは最終的に個人と家庭なので、「自助力向上」こそ防災、減災の目標です。このために、本学区では、「共助」の組織であるすべての自治会、マン

ション等が地域防災組織に参加して、各自治会等で災害直後の対応訓練を一斉に実施。児童と保護者は授業として参加します。また、その「共助力」は、学校ホームページにも公開されている「学区の防災マニュアル」が存在しているという、「公助（学校等）と地域、保護者の連携」が下支えとなっています。こうして、防災まちづくりが持続発展していくよい循環ができています。

今後の課題は、学区に存在する様々な施設や事業所等との災害時における連携や、それを構築する「地区防災計画」の充実と考えています。



女性消防団がPTA保健厚生委員会の「救護支援班」訓練を指導



全校児童、保護者、地域住民が参観する中で、消防団による放水訓練に拍手喝采！

